

# オランダ島の景観保全に努力

いまだ国内経済の回復の兆しが見えない中、各産業とも構造的な不況から脱しきれず、依然厳しい状況にあります。しかし、さまざまな環境変化にも対応する産業活動が活性化されるよう、推進しなければならぬと考えます。

昨年のウニ漁は二〇トを超える豊漁となりました。漁業経営の安定化を図るためには、後継者である若手漁業者が生産意欲をかき立てられるかが重要です。昨年、海外の水産養殖事情を研修した水産・21世紀会議は、意欲も新たに「漁業まるごと体験ツアー」を主体的に取り組んでおり、その積極的な活動を支援します。カキ・ホタテの品質向上やアワビ・ウニなど、いそ資源の持続的な活用について関係団体と協議しながら推進します。

水産業、農業、商業など幅広い分野から構成された「海洋深層水利用調査等検討事業」は、付加価値づくりの調査・検討を実施します。秋サケの資源変動の原因究明やSRSSV（小型球形ウイルス）対策は、引き続き県や関係機関へ調査研究を要望し、町としても漁協・生産者と一体となって取り組んでいきます。漁



オランダ島。町は景観と環境の保全に努めています。多くの町民に親しまれている海水浴場として

港、漁村の整備は、県と共同で船越・大浦などの漁港の整備を図るとともに、大沢、田の浜地区の漁業集落環境整備事業を継続します。また本年度は、織笠地区漁業集落環境整備事業に着手します。

農業は、水稲と園芸作物、畜産、土地利型作物の組み合わせによる収益性の高い複合経営の確立を推進しなければなりません。また畜産は、BSE（牛海綿状脳症）の影響で落ち込んでいた牛肉消費が回復基調にある中、昨年全国共助会での最優秀賞受賞が畜産農家にとって高い評価を得たことにより、高品質の肉牛生産意欲が高まることを期待し支援強化に努めます。商業については、地元消費者のニ

ズに対応した魅力ある商店街づくりを、商工会と連携して進めることが必要であると考えます。国、県など、各種助成事業や融資制度、町小口融資制度のPRと利用促進を図ります。工業は、特産品の販路拡大への支援、誘致企業フォロワーアップ事業を実施します。

観光については、平成十三年度の観光客入り込み状況が前年比二・三%減の五十一万二千人余りでした。依然として日帰り客が九〇%以上を占め、景気低迷や近隣に類似施設が開設されたことでオートキャンプ場や海浜キャンプ場の利用者は大幅に減少しています。

## 豊かな生活を育む自然・環境をつくるまち

# 快適な生活基盤の整備を進める

三陸縦貫自動車道山田道路が開通しましたが、今後は釜石山田道路の事業促進を重点に、山田町―宮古市間の早期整備を強く国へ要望していきます。

また一般県道宮古山田線は国道までの改良を、主要地方道重茂半島線は大沢の排水処理施設以北の幅員拡幅改良整備をそれぞれ県に要望していきます。県代行事業の織笠・外山線については国道取り付け部の用地取得を行い、平成十六年度の完成に向け推進し、長林大浦線局部改良事業は平成十七年度の完成を目指します。

地域情報ネットワークの整備ですが、新たに国、県、市町村と相互に情報交換できる総合行政ネットワーク（L G

一方、アサリまつりや鮭まつりなどのイベント開催による誘客は年々増加しています。季節に応じた観光イベントや船越家族旅行村への誘客拡大に向け、ホームページなどによる観光情報提供の充実を図ります。昨年取得したオランダ島は、町のシンボルとして景観と環境を保全し、海水浴場など皆さまに親しんでいただけるよう努めます。

雇用促進は、宮古公共職業安定所と連携し、きめ細かい雇用情報の提供や労働相談の充実を図るほか、国、県の緊急雇用対策事業を積極的に活用し、雇用の創出に努めます。

W A Nへの接続事業を実施します。テレビ・ラジオ難視聴地域の解消は、長内・島田・新田地区テレビ共同受信施設整備事業を支援します。

住環境の整備では、町営住宅柳沢第一団地建替事業のB棟建設を昨年から二年継続の事業で進めており、三階建て一棟二十一戸を整備します。また、急速に進む高齢化など社会構造の変化に対応するため、公営住宅の管理戸数やストック活用の方針・方策を定める「公営住宅ストック総合活用計画」の策定に取り組んでいます。上水道事業は、铸铁管布設替えを中央町と川向町で、石綿セメント管布設替えを山の内、船越地区でそれぞれ実施します。